

# 令和7年度第2回 名張市上下水道事業運営審議会

## 会議録【概要】

日時：令和7年11月20日（木）午後2時～午後4時50分

場所：名張市上下水道部庁舎 3階大会議室

委員出席者：中山会長、田畑副会長、松元委員、大塚委員、古谷委員、大黒委員、我山委員（会長、副会長を除き、名張市上下水道事業運営審議会条例第3条2項に示す第1号委員から第4号委員の順、各号内で順不同）

事務局出席者：栗原部長、寺島室長、茶谷室長、奥家室長、岩本室長、山森主幹、山寄係長、小藤主査、大塚主任

事務局補佐：株式会社日水コン3名

（議事要旨）

### 1 開会

栗原部長が司会進行を務め、審議会を開会した。

### 2 審議事項

#### （1）水道事業の持続可能な経営のあり方

事務局から以下の内容を説明

- ① 水道事業経営戦略の中間見直し
- ② 財政シミュレーション
- ③ 水道料金算定の作業フロー

#### 【質疑応答】

##### ①水道事業経営戦略の中間見直し

（委員）先日、国土交通省が広域連携に関する補助金を拡充するという新聞報道があったが、名張市も戦略目標の一つに反映しては如何か。

（事務局）広域連携について伊賀市とは年2回程度の協議を行っているが、現在の補助金要件（3事業体以上）に合致しないため、ソフト的な内容で連携協議を進めている状況である。

（委員）AI（人工知能）による劣化診断システムの導入によって、支出の削減といった効果はあるのか。

（事務局）従来の布設年度を基準とした管路更新計画から、新たに導入したシステムを活用するうえで、様々な条件を組み合わせた順位付けによる更新計画を立

ることが可能となった。毎年 10～12 億円の費用をかけて、漏水が発生しやすい箇所を効率的に更新していくことで、全体的な維持管理費用の削減につながると考えている。

(委員) 管路 DB (デザインビルド) 方式とスマートメーターについて、導入検討はなされているが実施に至っていない理由は何か。

(事務局) 名張市では更新時の管路材を Φ150mm 以下でポリエチレン管、Φ200mm 以上がダクタイル鋳鉄管の GX 形を採用しており、その殆どがポリエチレン管による更新である。管路 DB の先行事例はダクタイル鋳鉄管が比較的多く、本市でも説明を受けたことがあるが、ポリエチレン管の管路 DB の先行事例は少ないこともあり、導入までには至っていない。

また、スマートメーターについては、導入費用や通信に一定の経費がかかることから導入は見送っている。他の自治体の普及状況を参考に、検針に係る経費との比較等も行いながら、引き続き検討していきたい。

(委員) 情報の提供におけるアウトカム (効果) の内容は、アウトプット (結果) に位置づけられるのではないか。また、情報の提供を B 評価としている一方で、新技術の導入の検討でも同じ B 評価であるが、両者のレベル感が違うのではないか。後者は、AI システムによって合理的な管路更新につながれることなどを考えると、A 評価でも良いのではないか。

(事務局) 情報の提供については、その効果を検証するのが難しくこのような評価となっている。市民の皆様への周知にも取り組んでおり C 評価ではないと考えている。

(委員) 管路耐震化率の 1 年あたり 1 ポイント増加を目標にすることだが、耐震化が完了するのはいつになるのか。

(事務局) 単純に 100 年かかることになる。近年は 1% 強で推移しており、現在の予算規模で更新が続くと仮定しても 70～80 年かかることになる。

(委員) 新技術の活用によって、委託人数の 2 名削減及び大屋戸浄水場の無人化とあるが、大屋戸浄水場の無人化によって 2 名削減するといった意味なのか。

(事務局) 大屋戸浄水場の無人化による 1 名削減と、他施設における AI 搭載監視カメラを活用した維持管理業務の見直しによる 1 名削減で、計 2 名の委託人員の削減を見込んでいる。

(委員) 情報の提供において、どれだけ情報を発信したかではなく、市民の皆様にとりだけ見ていただいたかを視点に整理することはできないか。

(事務局) 閲覧回数など、市の広報担当にも確認しながら検討していきたい。

(委員) 長寿命化された材料の採用によって管路耐震化率が増加とあるが、耐震化率で効果を示すのではなく、長寿命管路の割合で評価するほうがわかりやすいのではないか。ポリエチレンスリーブ被覆の実施によって、漏水を防ぐこと

になると思うが、漏水率ではなく有収率で効果を示すのか。さらに、今後の目標として有収率は90%以上を目指すとするが、現状維持で良いのか。

(事務局) 老朽化が進んで漏水が増加すれば有収率が下がるので、有収率が90%を下回らないことを目標として掲げている。

(委員) 浄水施設の運用方法の見直しの効果として、配水量の減少率と電気使用量の削減率は相対して評価できる指標なのか。

(事務局) 両者には相関があると考えており、配水量が減少する中で、運用見直しによりその減少率を上回る電気使用量の削減が確認できました。

(委員) 図表やグラフも含めて、市民の方に丁寧な説明が必要だと思う。また、委託人数の削減や無人化といった目標は、市民の方が逆に不安に思うのではないか。経営戦略に記載するならば、丁寧な説明が必要だと思う。

(委員) 戦略後半の情報提供の取組として SNS 等の活用とあるが、具体的には何か。また子ども世代に向けて、水道の重要性等について広報していくことも必要だと思う。

(事務局) 市の公式 LINE や Instagram も活用した情報提供を考えている。これまでに地域主催による災害時の対応や水備蓄の必要性についての勉強会等での啓発や小学生向けの浄水場見学も毎年実施している。

(委員) 説明いただいた取組については、戦略にきちんと記載した方が良いと思う。

(事務局) ご意見等を踏まえて、今回は経営戦略の見直し案をお示しする予定である。

## ②財政シミュレーション

(委員) 県内各市町村との料金比較において、県水の受水率の違いは原価構造に影響するので、条件の同じ市町で比較するべきではないか。議員や住民の納得感を高めるには、他市町との料金比較が必要になると思う。

(委員) 水道料金の内訳には、複数の要因が影響するため、条件を揃えるのは難しいのではないか。

(事務局) 料金の違いの要因の一つに受水率の違いはあるものの、あくまでも参考として料金比較を示している。検討していくべきことは、名張市としてどれだけの改定が必要かということである。

(委員) 一般会計からの繰入は想定しているのか。繰入をする・しないに関わらず、名張市としての考えを準備しておくべきだと思う。

(事務局) 国の繰出基準に基づく繰入はあるが、基本的には、独立採算制の原則の下、水道料金で賄っていくことになる。

(委員) 他自治体の料金改定事例において、次回以降の改定も検討されているのか。実際に3年や5年といった短い間隔で、料金改定が可能なのか疑問に思う。

- (事務局) 可能な限り早期に黒字化したいと思っており、前回会議でお示したように、1回の改定で黒字化を目指すとなると、50%以上の改定が必要となり、かなりのご負担をお願いすることとなる。今回は、1回目・2回目共に35%の案をお示したが、経営戦略の後半期間の取組によって、2回目の改定率の抑制等を目指していく。よって今会議では1回目の改定率をどう持っていくか意見をいただきたい。
- (委員) 事務局の説明のように一旦20年後まで見通すが、まずは今後5年間について検討し、5年後に再度考えることになるのではないかと。
- (委員) コロナ禍の影響等で予定されていた料金改定を見送ったことも、今回大幅な料金改定が必要となる理由の1つになると思う。
- (委員) 改定率を抑えるために、内部留保の設定額を見直した上で、改定から5年間の収支合計が均衡するような改定率としてはどうか。なお、内部留保の資金目的もきちんと説明するべきではないか。
- (事務局) 1回目の改定率が増加する可能性はあるが、5年間合計の収支均衡のシミュレーションを示すことは可能である。

### ③水道料金算定の作業フロー

(特になし)

#### 【事務局に求められた事項】

- (委員) 経営健全化の取組における、前半期間に取り組んだことと後半期間に取り組むことについて、経営戦略へのもう少し丁寧な記載が必要ではないか。
- (委員) 内部留保の設定額を見直した上で、改定から次の改定までの5年間の収支合計が均衡するような改定率としてはどうか。また、内部留保の資金目的をきちんと説明するべきではないか。

### 3 事務連絡

事務局から委員へ今後のスケジュールを説明した。

### 4 閉会

事務連絡の後、第2回名張市上下水道事業運営審議会を閉会した。

以上